

MACF 礼拝説教要旨

2024 年 1 月 28 日

ヘブライ人への手紙 3 章

「イエスはモーセにまさる」

- 1 だから、天の召しにあずかっている聖なる兄弟たち、わたしたちが公に言い表している使者であり、大祭司であるイエスのことを考えなさい。
- 2 モーセが神の家全体の中で忠実であったように、イエスは、御自身を立てた方に忠実であられました。 3 家を建てる人が家そのものよりも尊ばれるように、イエスはモーセより大きな栄光を受けるにふさわしい者とされました。
- 4 どんな家でもだれかが造るわけです。万物を造られたのは神なのです。
- 5 さて、モーセは将来語られるはずのことを証しするために、仕える者として神の家全体の中で忠実でしたが、
- 6 キリストは御子として神の家を忠実に治められるのです。もし確信と希望に満ちた誇りとを持ち続けるならば、わたしたちこそ神の家なのです。

* * *

ここでは「イエス様について思い巡らしながら生きる姿勢」が勧められています。その内容については、モーセがその昔イスラエルの人たちの指導者として立てられエジプトからの脱出を指導し、神の戒めをシナイ山頂で受け取り、全てのイスラエルの人たちを神様のまえに整える役割を果たしたように、イエス様はモーセ以上に優れた指導者として民を指導し、治めておられるのだということです。

モーセは民全体を指導する際の姿勢は「神の家全体の中で忠実だった」と評価されています。

人々の間で忠実な姿勢を保ち、将来語られるはずのことを証しするために、仕えるものとして忠実だったと書かれています。ここではモーセは人間以上の存在としては描かれていません。

人間として、できる最大の忠実さをもって民に仕え、自らも民のひとりとして希望をもって生きたのです。神様から託された指導者としての役目に対してモーセは当初尻込みし、神様に

叱られて、兄のアロンも添えられて、その任についたという経緯がありました。

モーセは偉大な指導者であり、偉大な預言者ですが、弱点をもった人間の枠を越えていないのです。

イエス様は「御子として神の家を忠実に治められる」と書かれていて、モーセが民全体のなかで

忠実な人格者という取り扱いを受けているのに比べて、まったく異なった視点で書かれていません。

イエス様は「神様からの直接的な指示、神様の心通りの思いをもって神の家を治める」からです。

しかも、神様ご自身が形成した神の家を御子が治めるという図式になっているので、これ以上

ふさわしいトップは存在しないのです。

そして、ここに書かれている「神の家」とはイエス様を信頼し、イエス様からの希望と確信を受け取り神の家族に属しているという誇りを抱いている一人一人、あるいはそういう集団が神の家

なのだと教えています。

つまり、教会の原型とも言えるイエス様とのきずなを持っている複数の人たちの集団のことです。

著者はさらに

6 キリストは御子として神の家を忠実に治められるのです。もし確信と希望に満ちた誇りとを
持ち続けるならば、わたしたちこそ神の家なのです。

と語っていて

わたしたちこそイエス様が直接愛をもって指導し、治めてくださる対象そのものなのだ
と教えています。

神の家が教会だとすれば、それは建物や組織のことではなく、イエス様を信頼している複数
人、二人、三人が関わり合うその「関係」「きずな」を意味しています。

あなたを治めるのは牧師でも教会役員でも教団でもなく、つまり、あなたは誰かに縛られた
り、奴隷のように義務でがんじがらめになる必要はなく、イエス様が直にみ言葉をもって触
れ、希望を与えてくださるのだと教えています。

現実的には教会にとって、イエス様を信じている群れにとって牧師不在は大変な出来事なの
ですが

しかし、イエス様が治めてくださっている関係の中に置かれているのだと信じていることができた
らきっとイエス様は養い、整え、導いてくださるに違いありません。

おそらく初代教会のきびしい迫害の状況の中では、まさに、これをしっかり心に受け止め、各
自が小さな

関わりと絆のなかで心を励まし会うことを積み重ねなければならなかったのだと思います。

あなたの存在といのちを本当に大切に思い、導き、整えようとしてくださっているのはイエス
様ご自身です。

わたしたちの小さなきずなの真ん中に常におられてその関係を祝福し互いに愛し合えるよう
にと

整えてくださっているのはイエス様です。

私たちの教会の礼拝の集いの中に、共におられて礼拝を受けとめ、礼拝者として整えてくださるためにみ言葉を心に届けてくださっているのはイエス様です。

牧師はそのための、み言葉を伝え、生き様をさらす役目を担っている「しもべ」です。

あなたとご家族、友人との間の会話、会食のなかにイエス様がおられます。

あなたが誰かと喜びを分かち合い、悲しみを分かち合う時、その関わりの中にイエス様がおられます。

それを意識しながら日常を生きることがとても大切なのです。

コロナ禍で礼拝が開催しにくくなったとき、私は個人的には、こういう意識をしっかりと心に育てるための絶好の機会だと感じていました。

いま、MACF は毎月三回の礼拝を開催しています。4 週目は OCC での礼拝をしていません。

その 4 週目に心していただきたいのは、ゆっくり休む、誰かと関わり消息を分かち合う、別の教会の礼拝に行ってみる、特定の教会の礼拝でなくてもイエス様の恵みはそこにあるということ十分に味わっていただきたいと思っています。

いずれにしても、モーセにまさる指導者イエス様が、私たちの個別の人生の中に介入して育て養い、導き、希望と愛を常に示してくださっていることを片時も忘れてはならないのです。イエス様に目を向けて生きるのです。

* * *

MACF 礼拝説教映像はこちらです。

<https://youtu.be/SEegm1XuJD4>